

行政と町民が一体となり



「自立した町づくり」 全国の自治体のモデルに

昨年、柏原市政を揺るがせた水道工事をめぐる不正入札談合事件が起きた。逮捕者まで出し、大阪地裁において公判が始まっているが、市当局はたいした反省の色も見せず、何事もなかったのごとく振る舞っているように見える。

明々白々の談合事件が簡単に続いてしまう、税金の無駄遣いに鈍感ないまの柏原市政では、また同じことを繰り返さないと言えらるだろうか。このままでは柏原市の行政は、市民

私たちの主張

平成の大合併が進む中、あえて厳しい自立の道を選択、根本良一・前町長の強いリーダーシップの下、大胆な町財政

政改革に挑んだのである。町に有力な財源があるわけではなく、柱となる産業があるわけでもない。すぐに思いつく

を置き去りにした密室行政に
なりかねない。

オンブズマン制度に基づいて、市民が日常的に行政に関心を持ち、不正がないかチェック

「見張り番」創刊の辞

市民の目で市政のムダや不正をチェック

市民の取めた税金の遣い方を監視するのは本来、議員・議会の仕事である。しかし、彼らがその使命を十分に果たして

いないことは、自治体をめぐる不祥事が全国で絶えず繰り返されている事実によって証明されている。

であれば、心ある者が市民の

立場から情報公開制度や住民監査請求を活用して、行政だけでなく議員・議会も含めてチェックし、不正防止のために活動しなければならぬと考える。大阪市の公金乱脈事件をはじめ、「見張り番」は関西地区では最も多くの実績をあげてきた市民グループである。

同グループの中心メンバー松浦米子氏の応援協力を得て、柏原市にも「見張り番」を設立、本紙を通じて柏原市民への有益な情報を発信したい。

福島県矢祭町。茨城県と境を接する人口六五〇〇人の田舎町は、〇一年十月三十一日に出した「合併しない宣言」で一躍注目されるようになった。



大胆な財政改革を行ってムダを省き、福祉や住民へサービスを向上させた矢祭町は、全国自治体がおこなうべき改革のモデルとなっています(写真=矢祭町ホームページ)

職員は半分、サービスは倍

根本前町長はまず、自らの報酬をカットし、職員を半分に減らした。率先して役場の清掃を行い清掃業者との契約を止め、助役や教育長や職員が庁舎や周辺の掃除をしている。矢祭町庁舎は築四〇年を経過する木造二階建てだが、掃除がよく行き届きいつも清潔である。女子トイレには髪の毛一本落ちていない。

議員報酬は〇五割に

町職員を半分に減らしながら、住民サービスは三倍に増やす努力も続けた。たとえば、自宅を出張役場と考えて各種届出や税金などの納付を可能にした。夜間でも受け付けて証明書などを配布する。職務の兼務を推進し組織を改めて効率化。役場の窓口はフレックスクス制に対応し、三六五日間休まず開いている。

一方、議会も自ら、議員の定数を一八人から一〇人

はまうら佳子の元気が出るコラム

さきごろ、大阪府の橋下知事に「福祉に使ってほしい」と、80代の女性がポンと1億円を寄付したことが話題になりました。リュックに現金1億円を詰めて直接府庁へ持参したというから、大阪のオバちゃんはやっぱりすごい！

しかし感心するのはまだはやい。なぜなら、柏原市でも同じような美談があったのですから。一昨年のこと。亡くなった息子さんの遺志として1億円、さらに自分も5000万円を加算して1億5000万円を柏原市に寄付するよう遺言して亡くなった80代の女性がおられました。

息子さんは柏原市の元職員で、母一人子一人だったよ

うです。「お年寄りのためにつかってください」というのが遺言の内容でした。しかし、このことをほとんどの市民が知りません。

広報誌のかたすみにも載っただけだからです。市議会でも「顕彰すべきでは」と質問された岡本市長は「1円も1億円も寄付は寄付。差別はいかん」と答弁。確かにそうなのですが、談合事件やセクハラなど暗い話題が多い柏原市。こういう美談は、市民だけでなくマスコミにも取りあげられ柏原のイメージアップにもつながったはず。柏原をよくするためにこの女性の善意は、果たして有意義な使われ方をしているのかも気になります。



で働く地方議員なのだ。

3人目の赤ちゃんに祝金100万円

年間約二四〇〇万円の削減となり、その分を子育て支援などにまわした。少子化対策として、三人目の赤ちゃん誕生に一〇〇万円、四人目に一五〇万円、五人目に二〇〇万円を祝い金として出す(現在は額を変更)。さらに、保育所と幼稚園を統合し経費を節約、利用料を下げた。

町民のために一生懸命やる職員の姿を見ているから、大勢の町民がボランティアとして参加する。昨年開館した「もったいない図書館」も、全国から寄贈された四〇万冊の整理を町民ボランティアが手伝った。

このような、矢祭町の行政と町民が一体となった「自立した町づくり」は、全国の自治体のモデルとなっている。

パトロール

昨年二月、柏原市に本社を置くD社の鎌倉営業所が社内のトラブルが原因で、鎌倉市から委託されているピンと信の回収ができず、随意契約を解除された。▼当然ながらD社は鎌倉市から事業費の支払いを凍結されてしま

う。ところが、D社の代表者は何を思ったか、その支払いを求めて十二月四日午後四時、鎌倉市役所を訪ねたのだ。その際、同席したのが代表者の身内である柏原市のY市議。国会議員秘書と柏原市の顧問弁護士も随行していた。その場でのやりとりについて、関係者の話を総合すると、喧嘩に近いものだったようだ▼問題なのはその際、Y議員が自分のことを「D社の社員」であり、「柏原市議会の議員」と公言していること。これが真実なら地方自治法に触れる▼同社は、柏原市から公共事業を受注している会社で、昨年九月、柏原市を揺るがした水道工場の不正入札事件で大阪地検特捜部の捜査を受けている▼それにしても、Y議員のこの行動力、身内企業を守るためではなく、市民のために発揮してほしいかった。

information

イベント等のお知らせ

■小栄住明子 ピアノリサイタル
【6月6日(土) / 18時30分開演 / 会場=リビエールホール小ホール / 前売り・一般2000円】
驚愕の新アレンジで聴くハイブリッドクラシックをご堪能ください。

■NHK大阪児童劇団
ミュージカル「生きていてこそ!」
【8月2日(日) / 14時開演 / 会場=リビエールホール大ホール / 前売り・一般2000円】
空襲にあった焼け野原でくらしている子供たちのお話。今年も柏原の小学生のみなさんに舞台上に立ってもらいます。

■母子家庭のための就業支援講習会
【6月6日~9月12日までの土曜日 / 13~15時(全14回) / 会場=フローラルセンター他 / 無料(教材費等約2万円は実費負担) / 子ども課子ども家庭係(電話972-1563)まで】
母子家庭のお母さんを対象にした医療事務の講習会です。

■かしわらフィッシングスクール
【6月6日、20日、7月4日のいずれ(土) / 9時~正午 / フローラルセンター / 無料 / 小学4年生~中学3年生対象(親子での参加も大歓迎) / 先着順20名 / 社会教育課(電話972-1688)まで】
つりの基本やマナーをインストラクターが親切・丁寧に指導する入門講座です。